

テーマ：『 小学校内にある自然環境整備、自然との関わり合いを通じた感性を育む総合的な学習の時間 』

横浜市立 別所小学校

Tel. 045-715-2973

担当者： 七條 和靖



■ **実践内容:**別所小学校では、校内にあるうっそうと茂っている森を「別所の森」と名付け、学習の中で生かせる場として整備してきた。主な実践内容は以下の通りである。

○5年生

- ・別所の森の枯葉を使つての腐葉土を作った。
- ・明るい場所にするために、花を植えたり木を植えたりした。
- ・みんなが入ったときに楽しめるように、木の枝を使ってクイズを作成した。
- ・みんなが入りやすいように案内表示を作った。

○ 1、2年生

- ・クズのつるを使ってリース作りをした。

○技術員

- ・別所の森の木を伐採したり草を刈ったりして、子どもが入れる環境を整えた。
- ・伐採した木や校内の竹を使ってテーブルや階段、手すりを作成した。
- ・危険箇所にロープをはったり、道を整備したりして、子どもが学習の中で安全に活用できる場にした。

■ **実践成果:**これまでは生き物や植物を観察するときには、弘明寺公園や舞岡公園などに観察に行っていたが、「別所の森」が整備され、学習の中で活用できる場になることで、児童から出た課題を身近で解決することができるようになった。

また、学校の敷地内に「別所の森」があることで、自然に触れる機会が多くなり、子どもの生き物や植物などの自然事象に対する興味・関心が高まった。

授業参観や運動会などのときに「別所の森」を開放することで、来校者も関心を寄せ、「別所の森」が別所小学校の名所となった。

■ **実践ポイント:**「どうしたらみんなが楽しく安全に学習できる森になるか」という課題をもって子どもが取り組むことで、子どもが「入りたい」と思えるような環境になった。

学習を進めている学級だけが取り組むのではなく、まわりに知らせることで、他の学級や学年も「別所の森」で学習する計画を立て実施するようになり、学校全体の取り組みになった。

子どもだけでは、できない大がかりな作業に技術員が参加したときは、子どもの活動を進展させるきっかけにもなった。